

第2報 照度の影響

○北村薫子*，水野真裕子* (*武庫川女子大)

【目的】第1報に引き続き，本報では，照明要因のうち照度を取り上げ，質感に及ぼす照度の影響を実験的に検討する。【方法】2700×2700mmの実験ブース内に机とついたてを設置(内装および什器はすべて白色)し，被験者の正面のついたて面に300×300mmの試料を呈示して評価させた。照明は，5000Kの直管型蛍光灯を天井から吊下げ，試料全体を照射した。照度条件は，あらかじめ予備的検討を行った結果から選定し，試料上鉛直面で15～2000lxの8段階とした。試料は，内装仕上げ材として一般的に用いられる合板・布クロス・ビニルクロス・和紙など12種類とした。評価は，光沢・粗さ・柔らかさ等の項目についてME法により得た。被験者は正常視力を有する5名である。【結果】光沢感・粗さ感・やわらかさ感とも照度が高いほど評価が高くなる傾向がみられた。本実験条件の照度範囲では，いずれの試料についても照度が高いほど光沢感は高くなった。粗さ感は試料の表面形状による差がみられ，表面の凹凸幅の大きい試料と比較し，凹凸幅の小さい試料は照度の影響が顕著に表れた。柔らかさ感は試料による差は小さく，15～100lxの範囲で照度が高いほど評価が高くなり，それ以上の照度では評価が一定となる傾向が認められた。